

洞爺湖町立学校における特色ある学校づくりと 教育環境の向上に関する総合的な方策について 答申【概要版】

この答申は、洞爺湖町が進める各種計画との整合性を図り「洞爺湖町内小中学校の適正配置計画」（平成26年）の考え方を検証しながら、洞爺湖町教育行政審議会において9回にわたる審議を経てまとめたものです。

とりわけ、教育におけるいわゆるソフト・ハードの両面から、洞爺湖町で目指す子どもの姿やそれを実現するための環境づくり等について議論を深め、次の視点を確認しました。

◇洞爺湖町の教育でこれから進めてほしい5つの視点

【持続可能な学びの場】

- ▶ 未来を担う子どもたちの「学びの場」を作る転換期

【地域全体が「学び」のフィールド】

- ▶ 「主体性を持ち、多様な人々と協働しながら学び続ける」力を育む教育環境の整備

【豊かな学びと地域創生】

- ▶ 町民総掛かりによる教育の好循環と地域創生

【小中9年間を貫く学び】

- ▶ 義務教育9年間の系統性や学びの連続性を意識した小中一貫教育の導入

【魅力ある生涯学習社会の実現】

- ▶ 利用者の利便性等に配慮し、集約化や複合化の推進
- ▶ 社会教育活動をコーディネートする人材の発掘・育成

今回の答申は、結論を一つにまとめ上げるのではなく、多面的・多角的な視点を重視し、各委員から出された主な意見等を網羅的に総括する形で示しています。

洞爺湖町の現状

【児童生徒数の減少】

801名（平成18年）
↓
約51.3%減
↓
390名（令和6年）

【教育施設の老朽化】

- 学校教育施設
耐用年数超過：2/7施設
- 社会教育施設
耐用年数超過：7/9施設

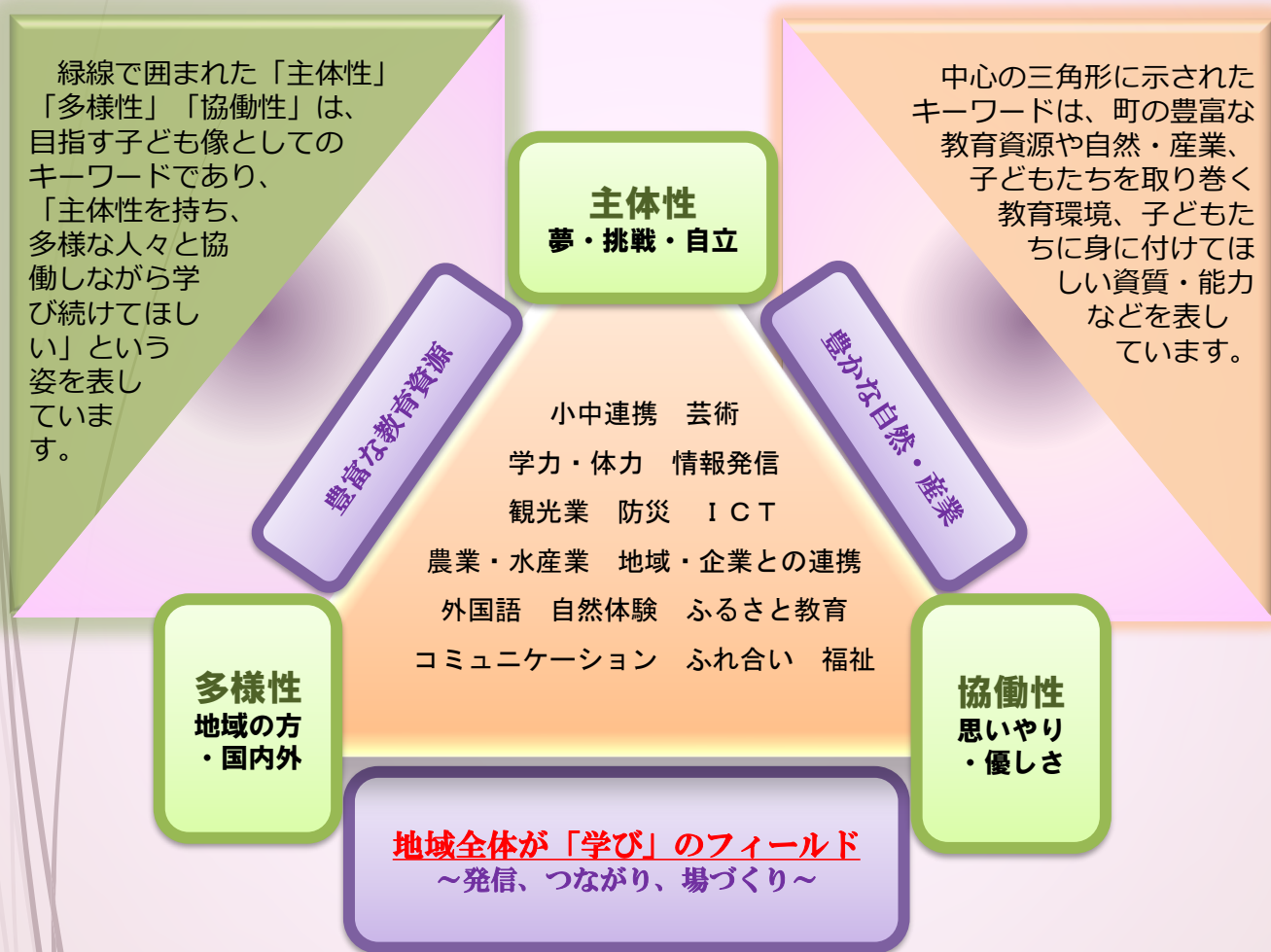
【町の財政状況】

急激な生産年齢人口の減少に伴う町税収入や地方交付税等の減少

特色ある学校づくりと教育環境の向上にむけて

教育のソフト（目指す子ども像や教育活動など）とハード（教育施設のあり方や人材育成など）の両面から審議を進めました。

【ソフト面（洞爺湖町として目指す子ども像など）】



紫線で囲まれた部分は、子どもたちの豊かな学びを支える環境を表しています。とりわけ、「地域全体が『学び』のフィールド」として押さえました。

【小中一貫教育制度の導入に向けて】

互いに刺激し合い、その中で主体性が生まれてくることを考えたら、ある程度の人数の中で学んでいくことも大切

加配教員の配置は教育現場に多くのメリットをもたらし、新たな学校文化の構築に向けて意欲向上に資する

町で一斉の小中一貫教育を導入するのはハードルが高い
メリットやデメリットを精査しながら段階的に進めていく方がよい

導入のスケジュール等について十分な協議を重ねながら必要な準備を計画的に整えていくことが重要

洞爺湖温泉小学校の校舎を活用して小中一貫教育を進めてはどうか（その他意見あり）

問題を先送りせずに教育予算の確実な確保に向けて町長部局や町議会と連携を図っていただきたい

【ハード面（教育環境の向上）】

子どもたちにとって最適な教育環境を整備するため、安全性、利便性、児童生徒数の推移、財政状況、地域性といった5つの視点を総合的に考慮しながら、地域のニーズに合った教育環境の向上に努めることが必要であり、その観点から協議が行われました。

【虻田小学校・虻田中学校】

- ・新しい学校を建ててしまうとさまざまなリスクもある
- ・学校の統廃合については地域と協議し、小中一貫教育の実施に向けても段階的に進めるべき

【洞爺湖温泉小学校】

- ・小規模だが比較的新しい洞爺湖温泉小学校の校舎を活かしていく
- ・PTAや今後通学する児童の保護者の考えを把握し、虻田地区との学校の統合に向けて検討することも一案
- ・合宿所や避難所として学校以外の用途も検討すべき

令和8年4月
虻田中学校は
虻田小学校の
校舎へ移転予
定



【全体】

- ・町内すべての学校を集約する決断を検討する必要があるかもしれない

【とうや小学校・洞爺中学校】

- ・小中一貫に対して反対はないが現状では一つの校舎に入れない
- ・施設分離型の義務教育学校も考えられるが、メリット・デメリットを確認する必要がある
- ・洞爺地区の学校のどちらかを増築し、一体型の学びの場を構築してほしい
- ・将来的に複式学級が見込まれるのであれば、洞爺湖温泉小学校校舎を活用し統合することも選択肢の一つ

ハード面 給食センター

【現状と検討の経緯】

- 検討の対象施設：虻田給食センター、洞爺給食センターの2施設
- 検討の経緯：H17町村合併時に「新町において2施設の統合」を確認
R3洞爺湖町学校給食センターに係る検討委員会において「洞爺給食センターの統合、改修案」を提言
R5改修規模や工事費等を再検討し「給食センターの統合時期の見送り」を決定

【今後の方向性を考える際の視点】

学校再編の進展に応じた柔軟な対応を検討すべきではないか

安全性の確保と必要な機材という経費のバランス

持続可能な形を模索する中で議論が必要

新たな方向性（弁当など）も検討すべきではないか



地域食材のよさの実感、生産者への感謝の心を育む食育教育の一つとして継続する取組を

洞爺地区は豊浦、虻田地区は伊達を利用するなどの選択肢もある

施設の統合は、地域の給食のあり方を示すモデルとなるようにすべき

安心安全な食の提供、経済的・効率的な食の確保も視野に入れた解決策を

2つの施設を1つにすることを再検討が必要ではないか

虻田地区の業務委託

ハード面 社会教育施設

【今後の方向性を考える際の視点】

- 社会教育施設は集約化だけではなく、他用途施設との複合化も検討
- 学校を核とした地域づくりの推進⇒地域の魅力向上
- 社会教育活動をコーディネートする人材の確保
- 町民や子供たちが地域の魅力をPRする場⇒子どもたち自身の成長につなげる
- さまざまな団体の連携⇒地域全体の活性化

スポーツ施設
社会教育施設
町民文化施設

今後の検討
の視点

- ①集約化（社会的変化に対応）
- ②複合化（利便性の向上）

洞爺湖町教育行政審議会は、この答申が教育関係者、保護者、地域住民に広く共有され、具体的な取組が着実に進むことでより充実した教育環境が整い、地域社会全体の未来を切り拓く大きな一歩となることを強く期待します。

くわしくは町ホームページに掲載しています



洞爺湖町教育委員会では、この答申をもとに地域の方々とは今後さらなる検討を進め、特色ある学校づくりと教育環境の向上に努めてまいります。